

第1回会議 議題

1 北側拡張部の現状と課題について

(1) 経過

- ・平成16年 3月 アルプス公園管理運営検討委員会を設置
整備に関わる提言を現地整備に反映してきた。
- ・平成19年 3月 拡張部施設整備完了
アルプス公園管理運営検討委員会を解散。
- ・平成19年 5月 拡張部オープン
整備後の管理運営については、指定管理制度を進めることとして、検討委員会が描いていた体制は整わず指定管理者による維持管理及び自主事業を展開し、現在に至る。

平成16年発足した管理運営検討委員会方針 参考資料

(2) 現状の利用状況と課題（ソフト面）

市民や各々の愛好家が自然を楽しむ場として活用されているが全体的に利用は少ない。

りんご音楽祭は、野外音楽フェスとして多くの来園者が見込めるイベントとして、開催を受け入れている。

- ・ 園内の遊歩道を活用したウォーキング利用（森林浴）
- ・ 蝶の観察エリアとしての活用（専門家、市民）
- ・ 信州野鳥の会観察会
- ・ 野鳥観察エリアの活用（市民）
- ・ フリーマーケット（東入り口駐車場）毎月開催
- ・ りんご音楽祭（2日～3日間）
- ・ 指定管理者による自主事業
 - 自然観察会（葛などの除去活動）【2回/年】
 - 古民家体験学習【(そば打ちイベント2回/年)】
 - 石窯利用事業（ピザづくり）【利用者要望 毎週利用 10月～3月】
 - 七夕・クリスマス飾りつけ事業（森の入口休憩所）【毎年】
 - サツマイモ栽培
 - ヤマユリを育てる活動【2回/月】

(3) 現状の施設状況と課題（ハード面）

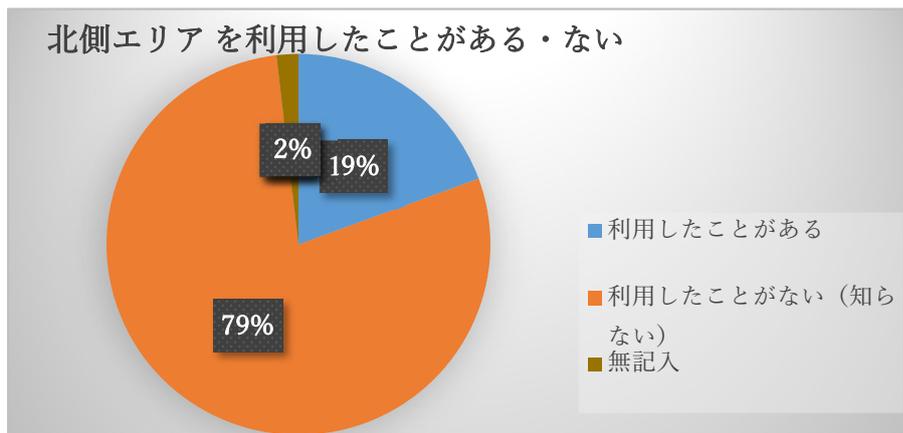
- ・ ふれあいの水辺（水生生物の観察場）
現状→ 整備部分が狭隘であり、水生生物の観察に限る。
- ・ 花の丘（季節の花を楽しむ丘）
現状→ 昔からある花木、山野草が少ない。

- ・ 森の入口休憩所・広場（南側開園部からの入口となる広場、自然観察場）
現状→ 自然観察の場とする池の機能が無い。
- ・ しぜんかんさつの森（野鳥など生き物を観察できる。）
現状→ 自生林が成長しすぎて暗く、開放的でない。
- ・ 森の里広場・古民家体験学習
現状→ 古民家と石窯、バーベキュー施設は利用されている。
畑は指定管理者がサツマイモなど栽培している。
木製遊具の一部は老朽化に伴い撤去済み。
- ・ 北入り口広場（棚田利用）
現状→ 棚田は活用されていない。

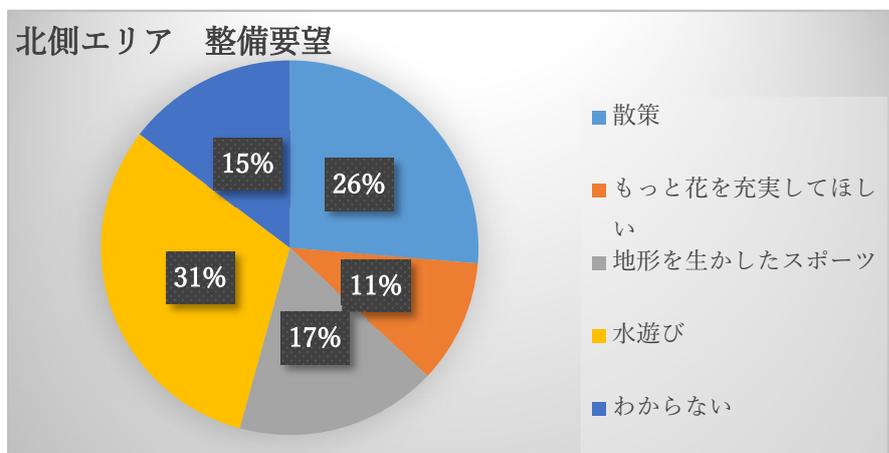
(4) その他

アンケートの結果状況

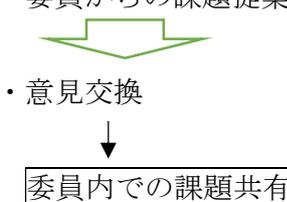
- ・ 南側開園部でのアンケート結果から認知度は低い。
調査日 令和3年5月2日～5日
利用したことがないと回答者が79%（1,004人からの回答）



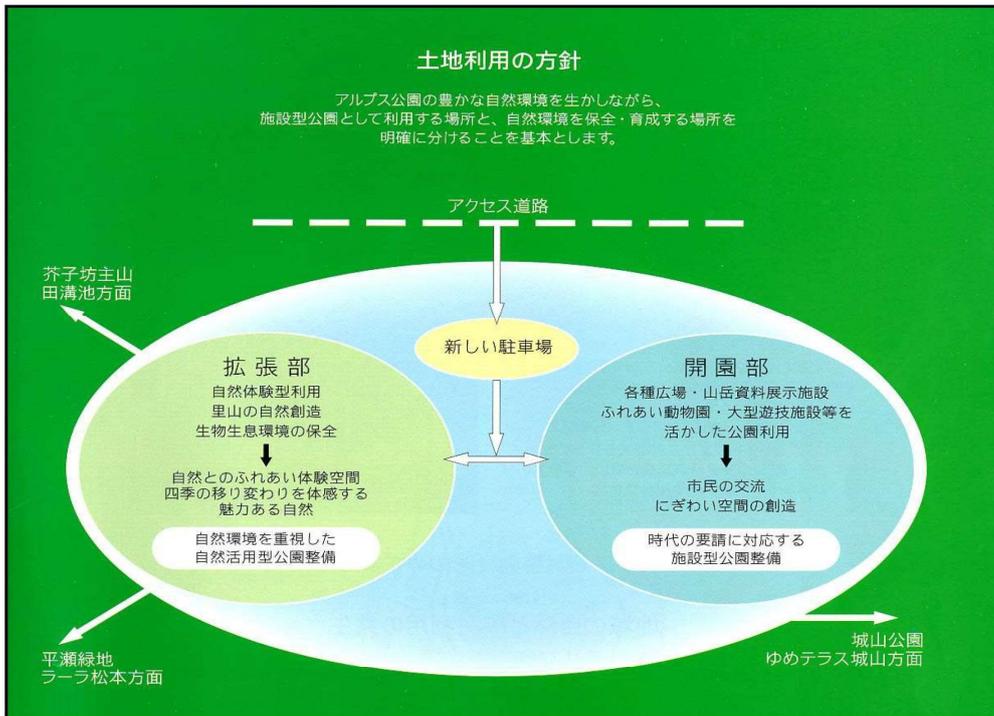
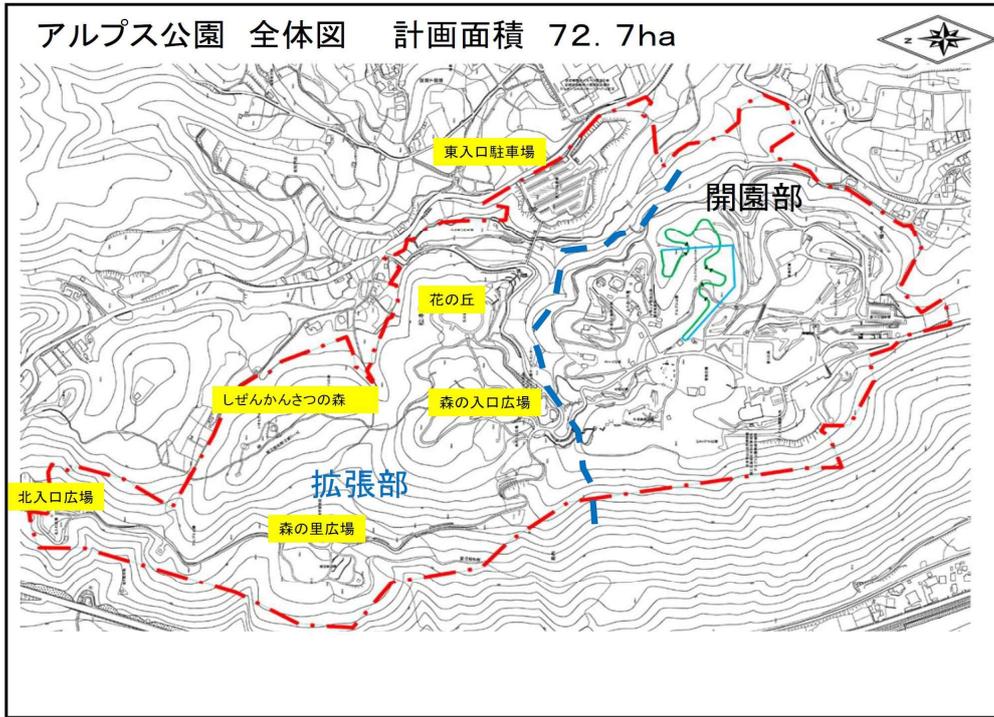
- ・ 活用がされていない。
- ・ 水辺の広場の活用がされていないとの市長への手紙を受けた。

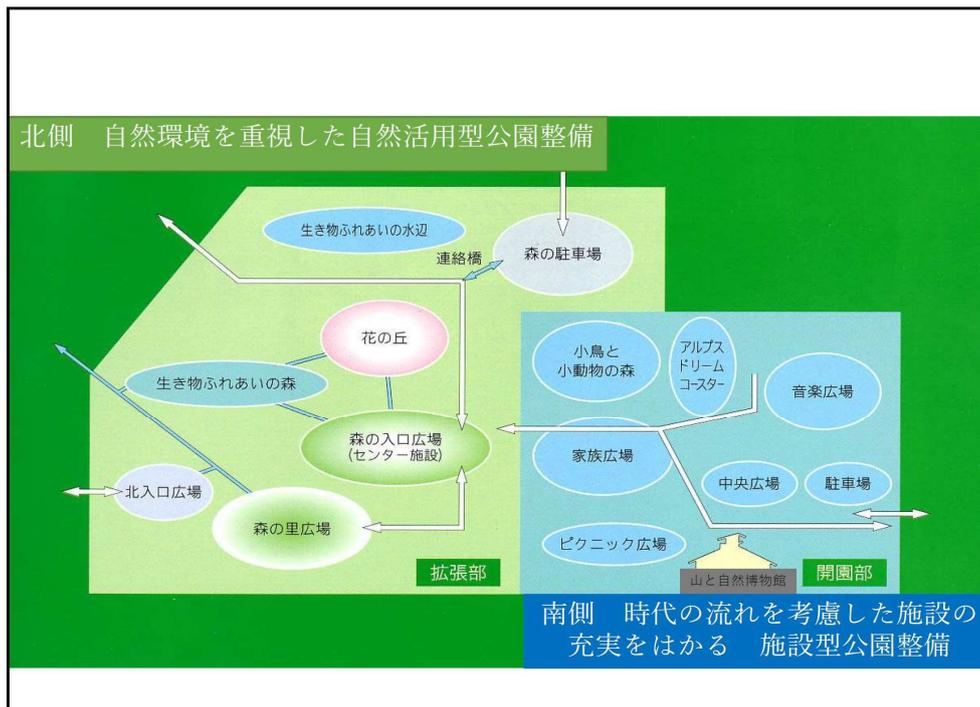


検討会議の議題とスケジュール

	会議 議題	資 料・事務局 (案)
第 1 回 11 月 5 日	<ul style="list-style-type: none"> 事務局説明 <ul style="list-style-type: none"> 経過、目的 現状 課題 委員からの課題提案  <ul style="list-style-type: none"> 意見交換 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">委員内での課題共有</p>	添付資料 <ul style="list-style-type: none"> 経過 <ul style="list-style-type: none"> 19年拡張時 検討委員会の提言に基づく整備 管理運営に対する考え 現状 <ul style="list-style-type: none"> 利活用方法 (写真: 指定管理) 認知度 (アンケート結果) 施設の現状 (写真: 平成 19 と現在)
第 2 回 12 月	<ul style="list-style-type: none"> 利活用について【ソフト展開】 <ul style="list-style-type: none"> 活用方法 実施内容 実施主体 実施時期 (スケジュール) 施設整備について (ハード整備) 	<ul style="list-style-type: none"> イベント誘致による活用 施設整備内容 <ul style="list-style-type: none"> 老朽化施設の再整備 既存施設の改廃 拡張整備時の施設へ復元 山林の里山化・伐採 新たな施設
第 3 回 メーリン グ開催 12 月～ 2 月	<ul style="list-style-type: none"> 利活用について【ソフト展開】 <ul style="list-style-type: none"> 活用方法 実施内容 実施主体 実施時期 施設整備について (ハード) 	<ul style="list-style-type: none"> 施設整備内容 <ul style="list-style-type: none"> 老朽化施設の再整備 既存施設の改廃 拡張整備時の施設へ復元 山林の里山化・伐採 新たな施設 メーリングによる意見交換
第 4 回 2 月	3 回に渡る議論の集約 提言に向けた最終議論	提言事項の集約

令和 4 年 3 月検討会議座長他が市長へ提言する。





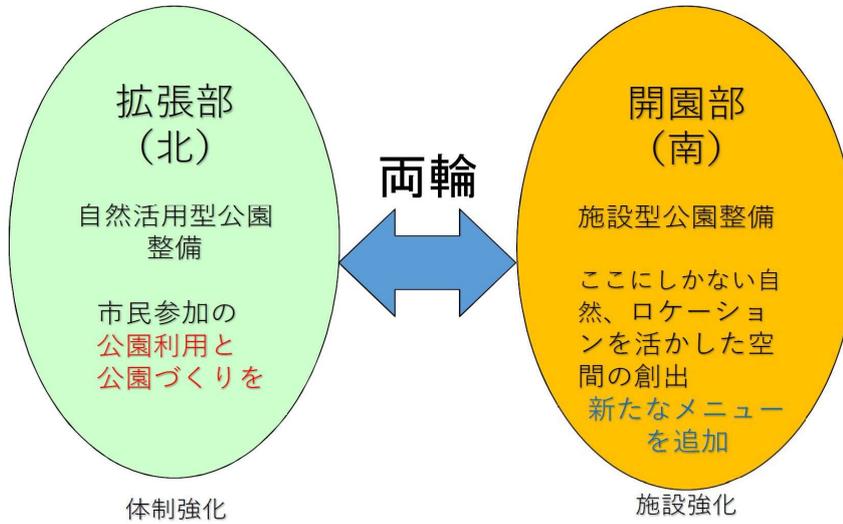
アルプス公園 拡張部 整備計画

平成10年度アルプス公園拡張基本計画策定
計画のテーマ

地域の自然と市民利用の共生

- ・ 人と自然の共生を目指す里山の再生
- ・ 開園部と拡張部とが連携した公園利用
- ・ 五感で感じる地域特有の自然と活動の場の整備
- ・ 地域の自然・レクリエーション施設とのネットワーク化
- ・ 市民参加による公園の整備・運営

両輪として、公園全体の拡充展開する

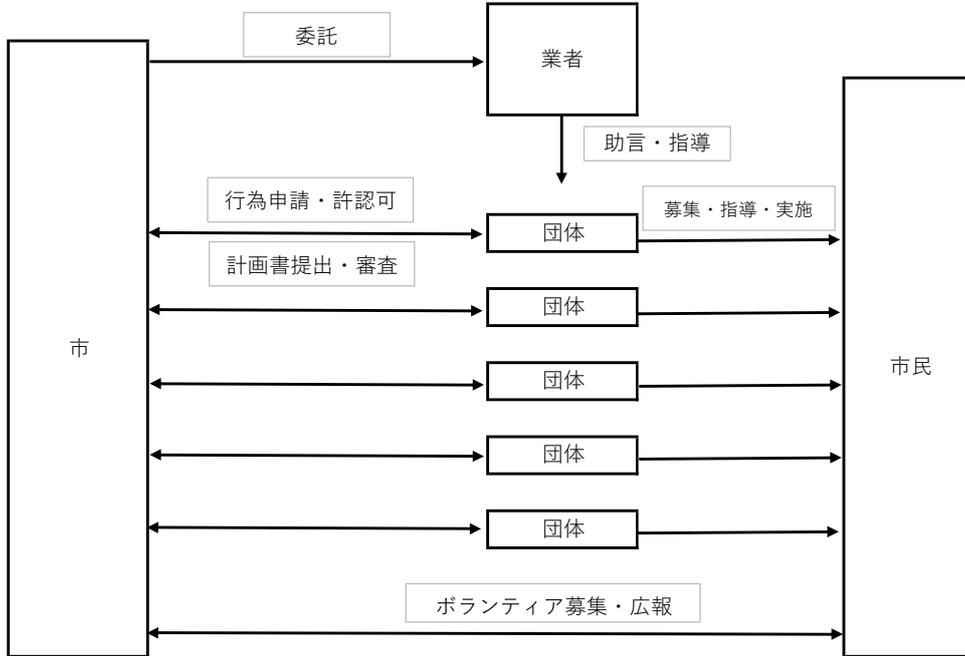


平成19年度アルプス公園管理方法

拡張部：奥原造園

開演部：松本土建

全体的管理方法



管理内容

植物管理	植林地	捕植、下草、間伐、灌水等	既設、随時
	植栽	施肥、剪定、病虫害駆除、灌水、除草等	既設、随時
	草地	刈払い等	既設、日常
	芝生	芝刈り、目土、施肥、灌水、除草等	既設、日常
	湿地	病虫害駆除、水位、水質管理等	既設、随時
	草花	植替え、病虫害駆除、灌水、除草等	既設、随時
	果樹	施肥、剪定、病虫害駆除、灌水、除草等	既設、随時

施設管理	建設管理	点検、清掃、補修、施錠	通年、日常
	工作物管理	点検、清掃、補修、器具取替等	通年、日常
	設備管理	点検、清掃、補修、水質管理等	通年、日常
	電気管理	点検、各種検査、検診、試験棟	通年、日常

清掃管理	ゴミ	清掃、利用者指導	通年、日常
	落ち葉、落枝、倒木	清掃、再利用	既設、随時

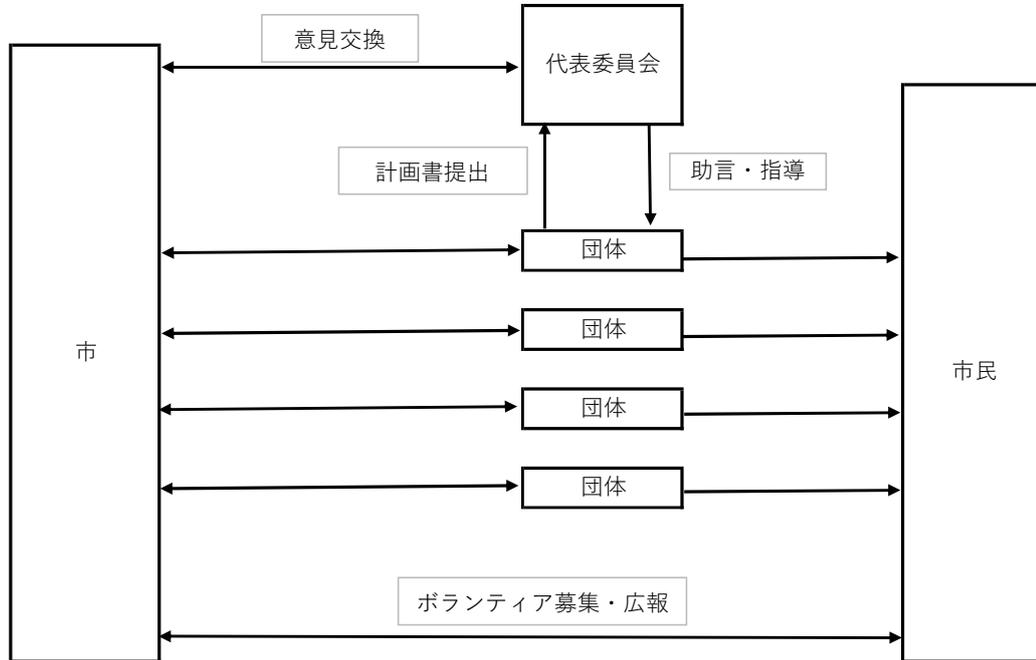
保全育成	森づくり計画、指針	間伐作業、鶴切、植樹	
	保全管理との整合	水辺環境作り	

管理方法

- (1) 通年管理・日常管理は業者委託（平成19年度は松本土建と奥原造園）で行う
- (2) 随時管理・季節管理はボランティア等市民の手を借りながら行う。
- (3) 市及び委託業者の指導の下に作業を行う。
- (4) 基本的に場所を指定した単一団体での占用及び管理は行わない。

平成19年度アルプス公園運営方法

全体運営



運営方法

(1)メニュー立案

市民が気軽に参加できるメニューを各団体より提案してもらい、市及び代表メンバーにより審査

(2)人材の確保・育成

各団体にてソフトメニューをさアセル人材の確保を行う。

登録ボランティア利用

(3)メニュー実施

提案者である団体が中心となって実施

行為申請・許認可を行う。

(4)年間スケジュール

メニュー立案時に、市よりスケジュール調整を行う。

混雑時には断る事もある。

広報・宣伝

(1) マスメディアの活用

放送・新聞等に取材依頼

ガイドブック・旅行雑誌等に掲載依頼

(2) ニューメディアの活用

インターネットの活用

(3) 口コミの活用 (SNS等)

市民団体等人的ネットワークの利用

(4) 企業の活用

旅行業者の活用

鉄道・バス等交通企業の活用

メニュー例・活動例と市民参加

アルプス公園の自然環境を生かした運営の一環として、市民が参加して公園全体の利用活性化を図るメニューの検討を行なう。

拡張部を中心に検討すると、代表的な活動は自然の資質を活かした自然観察・散策等の里山の自然体験活動が主なものである。

また、森の里周辺を考えると里山の生活体験活動も挙げられる。

活動の主要骨子及び具体例をまとめると以下のとおりである。

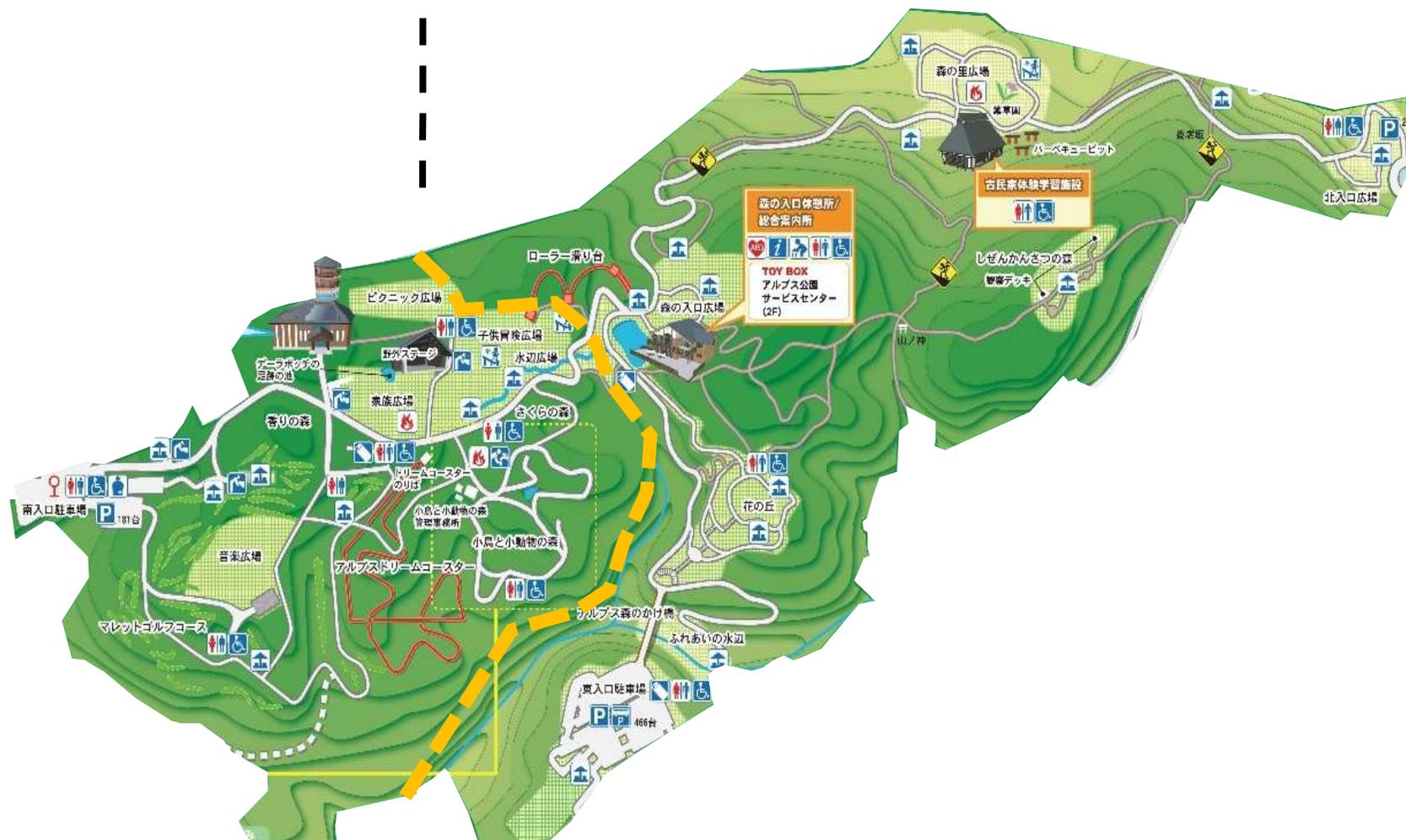
自然体験活動

主要骨子	具体例
1 調査研究 ・樹林管理の基礎調査、研究 ・自然生態系の基礎調査、研究	・樹林調査 ・動物痕跡調査
2 環境学習 ・地域の自然、森づくりの理解 ・エコライフの実践、勉強会の開催	・学習会 ・講演会
3 創作的活動 ・発色剤等、自然素材の活用 ・環境整備への部分的参加	・草木染 ・箆作り ・リース作り
4 余暇活動 ・整備された施設、環境の活用 ・市民参加による観察会等	・自然観察会 ・野鳥観察 ・ネイチャーゲーム ・野草育成
5 里山生活体験活動 ・整備された施設、環境の活用 ・地域住民、高齢者との交流等	・農作業 ・果樹管理 ・炭焼き ・落ち葉焚き ・焼き芋

アルプス公園 全体図

開園部

拡張部



ふれあいの水辺



H19 開園時	現在 (R3.10)
	
	
<p>【整備目的】</p> <p>(1) 公園内で唯一の、谷間の小さな沢と水田跡地を活用した水辺のゾーン。</p> <p>(2) 沢の水を保全しながら水生生物の住める環境を整備し、観察できるエリアとする。</p>	

花の丘



H19 開園時	現在 (R3.10)

H19 開園時	現在 (R3.10)
	
<p>【整備目的】</p> <p>(1) 丘陵地の傾斜面を生かして季節の花を楽しめるゾーン。</p> <p>(2) アルプス公園に咲くカスミザクラ、ヤマツツジなどが昔からある花木や山野草など季節の花が美しく咲く丘とする。</p>	

森の入口休憩所・広場



H19 開園時	現在 (R3.10)
<p>【整備目的】</p> <p>(1) 開園部から拡張部への入口となる広場。</p> <p>(2) 水辺の広場からの水を利用した池を造り、公園全体の中心となる広場で、公園全体の案内や自然体験・観察のための各種施設・休憩施設等を備えたセンター施設を整備する。</p>	

しぜんかんさつの森



H19 開園時	現在 (R3.10)
	
<p>【整備目的】</p> <p>(1) 現況の自然資源を最大限に活用し、里山の生き物にふれあうゾーン。</p> <p>(2) 既存の尾根道に沿った樹林を、林床の整理やニセアカシア林から雑木林への樹種転換を行うことにより、動植物の多様な生息生育環境を創出し観察施設等を整備する。</p>	

倒木状況



倒木状況



H19 開園時	現在 (R3.10)
	
	
<p>【整備目的】</p> <p>(1) かつてこの地域の人々が耕作を行っていた比較的平坦な土地を、当時の風景に復元して里山の生活を体験できる広場。</p> <p>(2) 古民家風の休憩所、菜の花やソバなど季節の花に覆われた畑、ウメ、カキ、クリ、クルミなど実のなる樹園、樹林など自然の素材を活用した遊び場などを創出する。</p>	

北入口広場

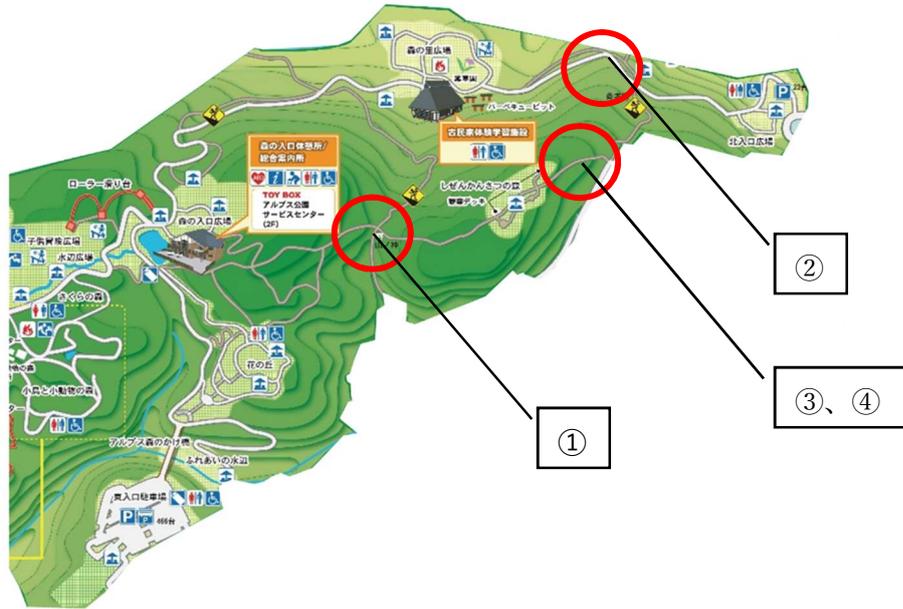


H19 開園時	現在 (R3.10)
	
	
<p>【整備目的】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) アルプス公園の北端で、松本トンネル取り付け道路に接し、北方面から公園への入口となる広場。 (2) アルプスや安曇野の優れた眺望や、広場内のため池を生かした水辺を楽しめる休憩広場とする。 (3) 30台ほどの駐車場を整備する。 	

ため池



北側駐車場



①道標



②四阿



③倒木状況



④倒木状況

